

製造業向けAI外観検査ソフトウェア

gLupe[®]

AI 外観検査革命

1枚のNG画像で

AI学習できる

無料お試し実施中

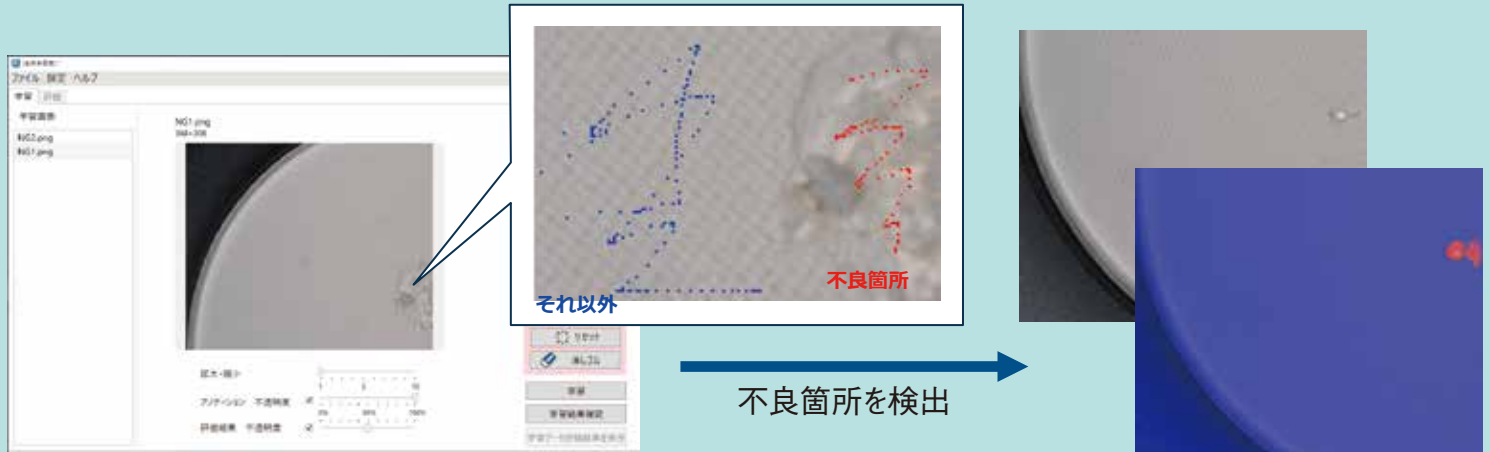
簡単操作で学習。機械学習の知識も不要です。

学習の操作は非常に簡単。不良箇所とそれ以外の場所を大雑把に教えてあげれば、画像1枚だけでもAIが学習してくれます。機械学習特有の複雑なパラメータ設定は不要。機械学習の詳細な知識が無くても、誰でも外観検査用AIを構築することが可能です。学習作業の様子や学習用ツールの使い方については、動画でも公開していますのでぜひご覧ください。



動画:[AI外観検査]
大きな部品や立体部品の検査に強い!
gLupe新機能のご紹介

不良箇所を大雑把にマーキングして学習



[異常検知:不良箇所学習]学習用ツール

見た目の変化に強い。立体物でも必要なモデルは1つだけ。

gLupeの「異常検知:不良箇所学習」の機能は、検出対象である不良の特徴を直接学習するため、不良箇所以外の製品本体や背景などの変化に強いことが特長です。これまで、サイズの大きな部品や立体部品のような複数回撮影が必要になる対象物の場合、見た目が異なるため撮影箇所毎にAIモデルを分けることが一般的でした。

一方でgLupeの「異常検知:不良箇所学習」機能の場合、全ての撮影箇所の画像をまとめて1つのAIモデルとして学習を行うことが可能です。それによって、自動検査の検証作業や、運用開始後のAIモデル管理などを格段に楽にすることができます。

サイズの大きな部品・立体部品の場合 ...

[これまで]

カメラで複数回撮影する必要があり、
画像のバリエーションができる
⇒ その分 AI のモデルが増えてしまい、
検証作業や運用開始後のメンテナンスが大変

[gLupe 異常検知：不良箇所学習機能の場合]

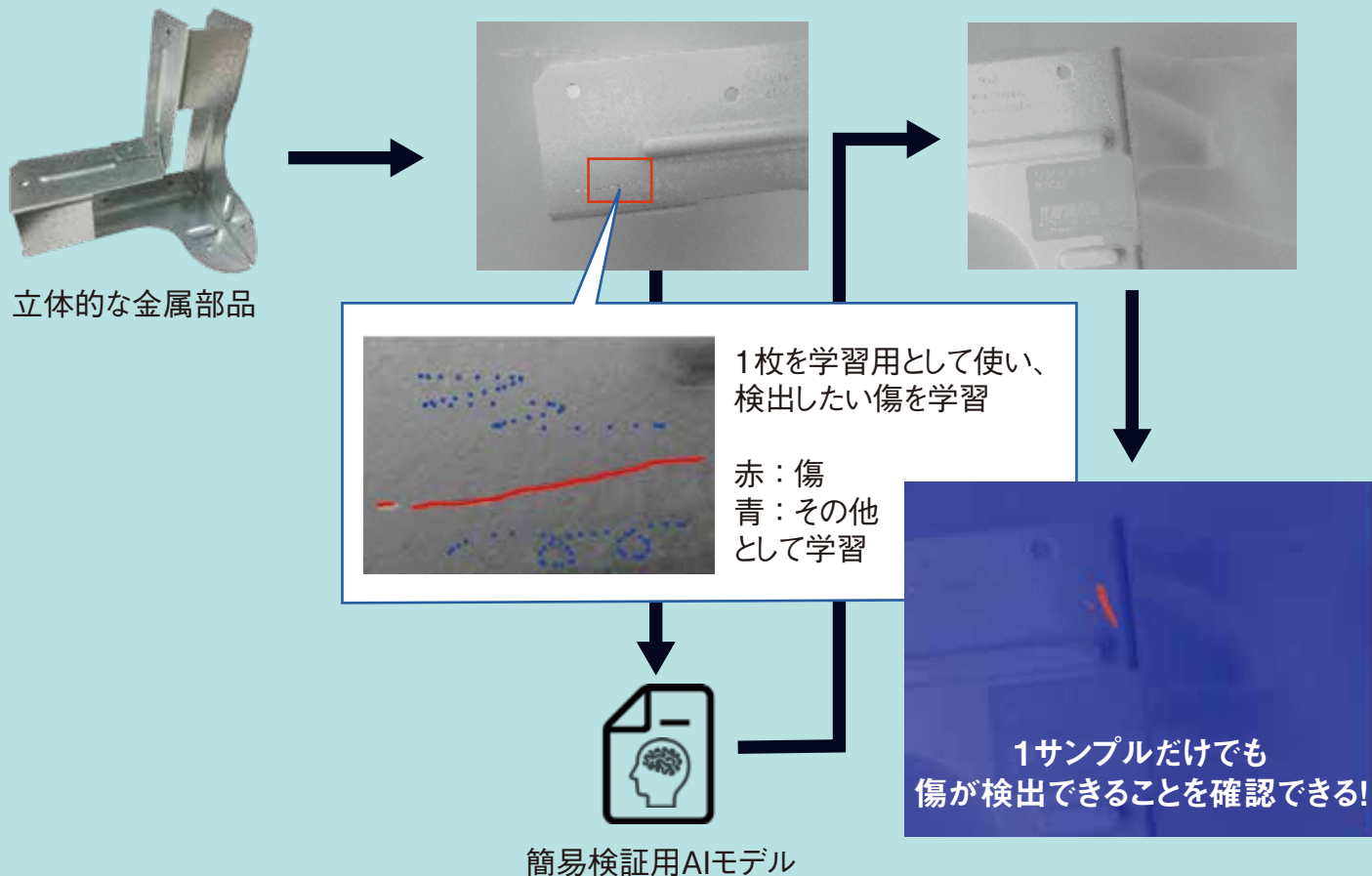
不良の特徴を直接学習するため、画像の写り方が変わっていても
1つのAIモデルで対応可能
検証作業や運用開始後のメンテナンスも格段に楽になります。

不良品サンプルが1つあれば検証可能。

AI検査装置を導入するにあたって、検出対象となる不良箇所が検出できるかどうかは事前に知りたいもの。しかし、通常のAIだと簡単に試すだけでも多数のサンプルが必要になり、さらに数十枚や数百枚の画像が必要になってしまいます。

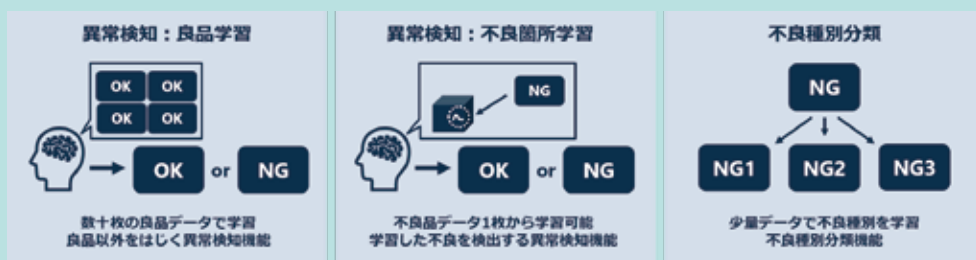
それに対してgLupeであれば、最低不良品サンプルが1つだけあればすぐに試すことが可能です。異なる面で1枚ずつ撮影した2枚の画像を使ったり、1枚の画像内にある複数の傷を使って学習・評価したりすることができます。

違う視点から2枚の画像を撮影



製品基本情報

- 外観検査に特化した以下3種類の機能を搭載



- 必要システム構成

CPU: Intel Core i5以上
メモリ: 8GB (16GB以上推奨)
GPU: CUDA対応NVIDIA製GPU メモリ2G以上(4GB以上推奨)
Maxwellアーキテクチャ以上

- 価格

開発キット(開発ライセンス)
¥748,000円(税込)
ランタイムライセンス
¥632,000円(税込)

お問い合わせ

E-Mail: glupe@isp.co.jp
web: <https://glupe.jp>

株式会社 システム計画研究所 / ISP

東京都渋谷区桜丘町23-23
Tel.03-5489-0232
<https://www.isp.co.jp>